

道徳の評価について 答申で示された評価の方法と実際の評価作業に関する基本的な考え方

1月、中日新聞朝刊で特集「道徳の教科化」が生まれ、識者の様々な意見が掲載されていました。2月4日には新しい学習指導要領の改訂案も示され、平成30年度（中学校31年度）に教科としてスタートするための準備が行われていますが、依然として反対は根強いようです。特集記事でも、

- ・国家が特定の見方や考え方を押し付けることはいけないのではないか。
- ・人格を評価するのはおかしいし、教師の好みで評価が行われる危険性があるのではないか。

等の反対意見が述べられていました。

評価に関して言えば、現行の学習指導要領に、「児童の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする」と記されています。今まで、道徳の授業の様子や授業の結果としての個々の児童生徒の道徳性の状況等を記録として残すことはありませんでした。しかし、道徳の指導案に評価の項目があるように、授業を行えば必ず授業の目標が達成できたかどうかを児童生徒の個々の認識や価値観の広がりや深まり等をもとに評価し、指導の改善に生かしてきました。さらに、指導要録には「行動の記録」欄があります。「基本的な生活習慣」「思いやり」等の項目に○印を記入し、個々の道徳性の実態を評価してきました。つまり、道徳の授業でも各教科領域で行われる道徳教育でも、ある意味、評価は行ってきました。

「道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする」という要領の但し書きが一人歩きをして、「道徳は評価は行わない」との考えが出たのではないかという人もいます。

今回の答申では、評価に関して、「一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実する」として、次の点を学習指導要領に盛り込むように言及されました。

- 1 道徳教育の充実のためには、目標を踏まえ、指導のねらいや内容に照らして、児童生徒一人一人のよさを伸ばし、道徳性に係る成長を促すための適切な評価を行うことが必要であること。このことは、道徳教育に係る学校や教員の指導改善等にも不可欠であること。
- 2 児童生徒の道徳性の評価については、多面的、継続的に把握し、総合的に評価していく必要があること。ただし、「特別の教科 道徳」（仮称）について、数値などによる評価を行うことは不適切であること。
- 3 指導要録について、「特別の教科 道徳」（仮称）に関して、その目標に照らして学習状況や成長の様子などを文章で記述するための専用の記録欄を設けることなどの改善を図る必要があること。また、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の成果として行動面に表れたものを評価することについては、現行の指導要録の「行動の記録」を改善し活用することなども考えられること。

答申の1では個々の道徳性を評価することとその評価を授業改善に生かすこと、2では評価の方法、3では評価結果の記録について、改善の方策や方向性が示されました。

ちなみに、答申で「評価の方法」として、次の方法が例示されました。

- (1) 指導のねらいに即した観点による評価
- (2) 学習活動における表現や態度などの観察による評価（「パフォーマンス評価」など）
- (3) 学習の過程や成果などの記録の積み上げによる評価（「ポートフォリオ評価」など）
- (4) 児童生徒の自己評価など多種多様な方法の中から適切な方法を用いて行う評価

以下、答申で示された方法を解説しながら道徳の授業の評価方法を提案したいと思います。

『私たちの道徳（中学年）』の高橋尚子選手を扱った資料「きっとできる」の授業で考えます。

- 本時の目標** 強い意志をもち、目標に向かって粘り強くやり抜こうとする気持ちを高める。
- 展開**
- ① **導入** 高橋尚子選手について知っていることを発表する。
 - ② **学習課題** 高橋選手の考えや行動について考えよう
 - ③ **資料範読**
 - ④ **発問1** ため息をつきながら、尚子はどんなことを考えていたのだろうか。
 - ⑤ **発問2** ハチコさんと呼ばれるようになった尚子はどんなことを考えていたのだろうか。（ノートへの記述）
 - ⑥ **発問3** 今日の授業で高橋選手から教えてもらったことは何か。
 - ⑦ 授業を通して考えたことを書こう。（ノートへの記述）

この授業で、個々の価値観や判断を見取ることのできるものは話し合いにおける発言やノートへの記述です。考えや判断が表れやすい内容を書けるよう、書く内容や書かせ方を十分に吟味する必要があります。書かれた内容をもとに、本時の目標を達成できたか。つまり、授業で取り上げた内容項目〔希望と勇気、努力と強い意志〕に関してプラスで自律的に実践しようとする考えを持てたかどうかを評価することが、(1)の**指導のねらいに即した観点による評価**です。

それに対して、(2)の**パフォーマンス評価**とは、プラスで自律的な考え方や判断する力の確かさを図る方法です。ある課題に対する答えをパフォーマンス（ふるまい）として表現させ、そこから学力を解釈する評価法で、○×式のテストでは測りにくい思考力や表現力を測るために開発された方法です。演技（パフォーマンス）を一定の基準で採点をするフィギアスケートの審査方法を想像すれば分かりやすいものと思います。パフォーマンス課題への個々の取り組みを、評価基準（ルーブリック）に照らして判断し評価します。

本時では、授業中の発言と活動⑤・⑦の記述から判断することになります。次のルーブリック例の空欄には、実際には基準とする回答例が入ります。

表 評価に用いるルーブリック例

指導様相	認知的側面 思考力・判断力	情意的側面 心情・意欲・態度	行動的側面 行動力・習慣
レベル3			
レベル2			
レベル1			

普通をレベル2、よりプラスで自律的だと判断したらレベル3と評価しますが、毎時間となると苦しい作業になります。だから、毎時間の授業では、私は次の授業中のア・イと授業後のウの見取りを記録として補助簿に残せば十分だと思います。

ア 授業で取り上げた内容項目に関するより高い価値に基づく判断や行為を理解できたか。

イ 自分の生活を振り返り、より良い生活を築くための自己課題を明らかにできたか。

ウ 授業後の生活で自己課題に基づいた望ましい行動や行為が見られるようになったか。

なお、表現の上手な子が高い評価を受け、下手な子を不利益が生じないように、ア・イに加えてウで個々の日常の様子をしっかりと見取る必要があります。さらに、一回だけでなく、ノートや作文等、考えが分かるものをファイルし、それらをもとに個々の道徳性の育ちや指導者自身の見方の確かさを振り返る必要があります。その評価方法が(3)の**ポートフォリオ評価**です。(4)の**自己評価**と組み合わせることでさらに確かな評価に結び付けられます。なお、学期に1・2回、授業で本時で取り上げた状況をさらに発展させた場面パフォーマンス課題として出し、そこに書かれた内容を評価する方法もあります。詳しくは京都大松下佳代教授の著書を参考してください。

なお、本時の評価では「話し合いで努力の大切さについて考えを深めた」等が考えられますが、数回を含めた表現することを考えると「前向きに自己の生活を改善できるようになった」等々の記載になるものと思います。表記例はまた別の機会に取り上げます。いずれにせよ、「道徳ではラベリングではなくアセスメント評価を（国学院大田辺教授）」の考え方を大切にしていきたいものです。